

Livio AI / Livio

充電式補聴器

初回フィッティング手順



初回設定 / 充電

- 1 Livio AI および Livio 充電式補聴器は、スターキーの2.4 GHzまたはNOAHLinkワイヤレスプログラマーを介した無線通信でのみプログラミングすることができます。補聴器は初回フィッティングを完了するには十分な充電量で出荷されますが、終日使用するには十分ではありません。
- 2 初回フィッティングの2時間半前にチャージャーケースに補聴器を入れて、補聴器をお客様の使用に十分な充電量を確保するようにしてください。

注: 補聴器の充電量が低下していると、データの読み込み時にバッテリーの警告が表示されます。表示された場合、フィッティングセッションは続行できますが、性能更新 (利用可能な場合) は実行できません。チャージャーケースで15分程度、またはミニターボチャージャーで7分程度の充電を行うと、性能更新を実行することができます。

接続開始

- 1 Apple / Android 端末の Bluetooth をオフにします。
- 2 Inspire™ X を立ち上げ、補聴器に電池を入れます。
- 3 接続開始画面で「補聴器と接続」を選び「プログラム装置表示」をクリックします。2.4 GHz ワイヤレスプログラマーを選択して、「OK」をクリックします。
- 4 接続する補聴器 (耳側) の横にある **チェックボックス** を有効にします。
- 5 新しいフィッティングセッションの開始、または現在の補聴器設定を基にして調整を行う際には、「補聴器の読み込み」を選択します。過去のフィッティングセッションのデータを呼び出すには「履歴の読み出し」を選択し、「開始」をクリックします。

注: 補聴器が検出されない場合は、補聴器の電源を一旦切って入れ直してからリフレッシュ (再読み込み) をクリックしてください。

注: 無線プログラミングの通信範囲は約10mです。

CROS または BICROS で補聴器をフィッティングするには CROS システム 初回フィッティング手順を参照してください。

初期フィットとオートパス

新しい補聴器をプログラミングする時は、初期フィットが自動的に立ち上がります。

- 1 適切な「音響オプション」を選択して「OK」をクリックします。
- 2 適切な「補聴器の経験」を選択します。[図1]
- 3 補聴器をお客様の耳に装着し、全てのノイズ源を減らしてから「開始」をクリックしてオートパスを実行します。
注: お客様が来る前に補聴器のプログラミングを行った場合は、後からお客様の耳に装着した状態でフィードバックキャンセラーを再度行ってください。
- 4 オートパスの結果を画面で確認します。結果がどこかのステップで不完全な場合には「再度開始」を選びます。それ以外の場合は「閉じる」をクリックして先に進みます。



図 1

ユーザーコントロール

初回のプログラミングの時には、ユーザーコントロールの画面でデモボックスが表示されます。ユーザーコントロールの設定オプションの「デモを見る」を表示させるか、「再表示しない」を選択して「閉じる」でウィンドウを閉じます。

- 1 有効にする「ユーザーコントロール」を左から選んで、右(赤)または左(青)の枠の中にドラッグ&ドロップします。ユーザーコントロール機能には、補聴器の音量、メモリー、耳鳴治療音レベル、ミュート、アクセサリーの作動/停止、アクセサリーの音量、手動転倒通知、電源オフ、Thriveアシスタントが含まれます。ユーザーコントロールの操作には、短押し、長押し、ダブルタップがあります。[図2]
- 2 Livio AI / Livio 充電式補聴器には電池ドアがありません。使用していないときに電源を切るには、ユーザーコントロールの長押しをすることで「電源オフ」を設定できます。
- 3 Livio AI / Livio 充電式補聴器は、ユーザーコントロールの長押しが「電源オフ」にデフォルト設定された状態で出荷されます。
注: 電源オフには「両耳間」機能がありません。
注: ダブルタップ、手動転倒通知、Thriveアシスタントは Livio AI だけの機能です。
注: 耳鳴治療音レベルがユーザーコントロールで有効に設定されても、耳鳴治療音が本体に設定されていない場合、警告アイコン①が表示されます。



図 2

クイックフィットとファインチューニング

- 1 左側ナビゲーションバーにある「クイックフィット」を選択して**全体的な調整（こもり感、低周波数、全体ゲイン、高周波数、最大出力）**を行います。[図3]
- 2 メモリーを設定するには、メモリーバーの**メモリードロップダウン**をクリックします。
- 3 左側ナビゲーションバーにある「ファインチューニング」またはクイックフィット画面の下にあるファインチューニングをクリックします。
- 4 調整のための表示方法を「**テーブル表示**」または「**スライダー表示**」から選びます。
- 5 「**低域**」、「**中域**」、「**高域**」、「**超高域**」のチャンネルグループを拡張表示させるには+をクリックします。
- 6 調整したいチャンネルと入力レベルの枠をクリック選択してから「**上下の矢印**」でクリックして調整します。

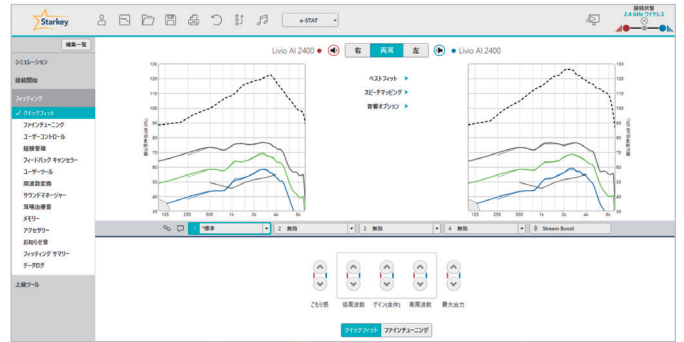


図 3

セルフチェック

- 1 左側ナビゲーションバーの「**ユーザーツール**」を選択します。
 - 2 補聴器のレシーバーを上向きにして平面に置きます。
 - 3 周囲の雑音を可能な限り無くします。
 - 4 「**基準設定**」をクリックして開始します。
 - 5 各補聴器から測定のための強大な提示音が流れます。
 - 6 各補聴器のチェック項目に緑色のチェックマークが入ったら、基準が確立されたことを示します。
- 追加の詳細情報は「[セルフチェック \(QuickTIP\)](#)」を参照してください

追加の調整項目

サウンドマネージャー、耳鳴治療音、周波数変換等の機能については各QuickTIPを参照してください。

メモリーとスピーチお知らせ音

左側ナビゲーションバー、またはすべての調整画面の中央にある「**メモリー**」を選択します。

- 1 **ドロップダウン**を選択し「**メモリー**」メニューを拡張し、設定したいメモリーを選びます。
- 2 **音楽メモリー**を設定する時は、「**音楽メモリー (Quick-TIP)**」を参照してください。
- 3 メモリーバーは、選択されている環境（例えば**屋外**）を表示するのがデフォルト設定です。「**吹き出し**」を選択して、画面を設定したスピーチお知らせ音（例えば屋外メモリーは「**ゴルフ**」など）に切り替えられます。[図4]



図 4

